

京北町の林業

京北町の総面積の98%を森林が占めており、そのうち99%が民有林で、人工林率は京都府平均を上回る47%となっています。

林業の歴史は古く、「平安京」の造営に木材の供給を行う禁裏御料地として栄え、府下でも屈指の先進林業地帯として、杉・桧の良質材を生産しています。また、短伐期集約林業として北山杉の生産にも取り組み、林業が町域の経済を支える基幹産業となっています。



町の木にもなっている北山杉



京北プレカット工場

京北町では、昭和39年から林業基本法に基づく重要施策として発足した林業構造改善事業が積極的に導入され、林道等の基盤整備をはじめ、木材の生産から加工・流通に至る総合的な取組が実施されてきました。

平成5年には、第3セクターによる京北プレカット株式会社を設立し、地域材の高付加価値化と地域材供給の一貫した流通体制の確立を目指したプレカット工場が整備されました。また、平成11年には、産・学・公による木造住宅の研究開発と住宅団地の整備・分譲が行われ、平成13年には京北産材を使用した住宅「京

北のいえ」を建設するなど、木材の需要拡大に取組まれてきました。

その他、都市住民に向けて京北町の林産物を紹介する「ウッドディー京北」や、気軽にきのこ狩りや森林浴などが楽しめる「京北町森林公園（きのこ館）」がそれぞれ設置されています。

今後については、森林・林業を通じて京北地域の豊かな自然環境を活かし、北山杉をはじめとする良質な木材生産を維持し、本市との合併を契機に京都市域の林業地域と一体となった「木の地産地消」運動が進むことが期待されます。



京北町産木材をふんだんに使用した「京北のいえ」

